

現状の水害リスク情報や取組状況の共有
各自治体でそれぞれ又は連携して実施している現状の減災に係る取組状況等

① 地域住民等の水防災意識の向上に関する事項

項目		浜松市	磐田市	静岡県	静岡地方気象台	浜松河川国道事務所	現状のまとめ	課題のまとめ	課題No
自主防災体制の強化	現状	【現状】 ・自治会、自主防災隊への出前講座を実施している。	【現状】 ・毎年、自治会長及び自主防災会長に研修会を年2回実施している(総合的な災害の説明、被災者等による講演会の開催) ・自主防災会長を中心に、図上訓練(DIG・HUG)を実施している。	【現状】 ・事務所ホームページにおいて防災情報(浸水想定区域図等)のページへリンクすることにより、情報を提供している。		【現状】 ・事務所ホームページや市が配布している洪水ハザードマップなどから水害に関するリスクが提供されている。	○自主防災会等への説明会等を年1回以上開催し、防災意識や知識の向上に努めている。	●自主防災会等の会員は地域住民の持ち回りとなっており、防災に関する情報や経験が蓄積されず、継承されない。また、地域によって、自主防災活動の充実度や地域全体の防災意識の向上度にばらつきが生じている。	A
	課題	【課題】 ・自治会役員や自主防災隊は任期により交代があるため、継続した意識向上が図りにくい。	【課題】 ・自主防災会長により大きく左右される。普段仕事に追われて片手間でやる方と時間にゆとりがあり地域のために頑張ろうという方いづれかが防災会長を担うかで地域全体の防災意識の向上度が異なる。			【課題】 ・自主的な避難行動を促すため、更なる水害に対するリスク情報の提供が必要である。		●自主的な避難行動を促すための避難マップ(洪水ハザードマップを含む)や水害リスクの高い区間などの情報の認知が不足している。	B
水災害教育の充実	現状	【現状】 ・依頼に応じて、小中学校への出前講座を実施している。 ・防災教育として「防災ノート」の作成に取り組んでいる。 ・総合防災講座や出前講座を実施している。 ・「区版避難行動計画」、「洪水ハザードマップ」及び「防災マップ」を作成・活用している。	【現状】 ・小中学校における洪水を対象にした講座の実施実績はない。 ・普及啓発活動については、内容に応じて、関係機関と協力・連携して実施している。 ・「磐田市防災ファイル」や避難所や持ち物リスト等の事前確認を目的とした家庭防災チェックシートを作成・活用している。 ・女性を中心とした団体に講師向けセミナーを実施している。	【現状】 ＜防災リーダー・講師の育成＞ ・「静岡県ふじのくに防災士養成講座」に参加し、防災リーダーの育成を図っている。 ・河川事業等の工事説明会において、事業の目的とともに、浸水想定や、水害リスク、防災情報サイト等の周知、啓発を行っている。	【現状】 ・静岡地方気象台ホームページに、学校防災ポータルサイトを設け、防災授業素材集の紹介を行っている。 ・静岡県、静岡市、浜松市の各教育委員会に対し、防災気象情報の普及啓発について依頼を行っている。 ・依頼に基づき、出前講座やワークショップを実施している。	【現状】 ・次世代の学生を対象にした、水災害に関する学習環境は整っていない。 ・関係機関が開催する防災イベント時に、パネルなどによる広報活動を実施している。 ・啓発活動がスムーズに行える資料などが取りまとまったものはない。 ・啓発活動を実施できる人づくりの取り組みはない。	○浜松市では、小中学校への水災害教育の出前講座を実施し、災害が起きても子供たちが、自分で考え行動することで身を守ることができるよう、「防災ノート」の作成に取り組んでいる。 ○静岡地方気象台ホームページでは防災授業素材集の紹介を行っている。	●学校・企業からの依頼がなければ水害を対象とした講座は実施されない状況である。 ●水災害に関する教育や啓発活動を継続的に行うための人材不足と、誰もが同じ視点で講習できる防災テキストがない。 ●流域外からの通勤・通学者に対する情報提供に関する取り組みが具体的に実施されていない。	C D E
	課題	【課題】 ・既存資料に変更が生じた場合(浸水想定区域の変更等)、新たな資料作成予算が必要となる。	【課題】 ・防災テキストを配布しても必ず見てくれるとは限らないため、見てくれる方を増やす必要がある。	【課題】 ・水災害について、教育と啓発する指導者の養成が必要である。		【課題】 ・教育機関と水災害に関する管理者との情報の共有と連携が必要である。 ・更なる啓発の強化が必要である。 ・誰もが同じ視点で啓発活動を実施する必要がある。 ・多くの啓発活動を実施できる人材の確保が必要である。	○「洪水ハザードマップ」を全戸配布及びホームページで公開している。 ○浜松市では「区版避難行動計画」や「防災マップ」を、磐田市では「磐田市防災ファイル」や防災用品チェックリストや家庭ごとの防災メモの作成シートを活用し、水防災意識の啓発に役立てている。 ○静岡県では、防災リーダー育成のために、講習会や訓練、「静岡県ふじのくに防災士養成講座」を実施している。磐田市では、女性を中心とした団体に講師向け防災セミナーを実施している。		

② 情報伝達、避難計画等に関する事項

項目		浜松市	磐田市	静岡県	静岡地方気象台	浜松河川国道事務所	現状のまとめ	課題のまとめ	課題No	
想定される水害リスクの周知	現状	【現状】 ・想定最大規模降雨に基づいた洪水ハザードマップの作成は、国からの公表次第速やかに検討予定である。	【現状】 ・想定最大規模降雨に基づいた洪水ハザードマップの作成は、国からの公表次第速やかに検討予定である。	【現状】 ・事務所ホームページにおいて浸水想定ページへリンクすることにより、情報を提供している。		【現状】 ・ホームページにおいて、計画規模の降雨による浸水想定区域図を公表している。	○計画規模の降雨による浸水想定区域図をホームページ等で公表している。	●浸水想定区域図の公表、洪水ハザードマップの各戸配布等しているが、水害リスクについて、地域住民・通勤・通学者へ十分に認知されていない。	F	
	課題					【課題】 ・浸水想定区域図等における水害リスクが地域住民に十分に認知されていない。 ・想定最大外力を対象とした浸水想定区域図の公表を今後予定しており、浸水リスクの更なる周知が必要である。	○市において、洪水ハザードマップを作成し、全戸配布及びホームページ等で公開している。	●想定最大規模の外力を対象とした洪水浸水想定区域図は、今後公表の予定となっており、水害リスクが認識されるよう周知する必要がある。	G	
住民等への情報伝達の体制や方法	現状	【現状】 ・全戸配布している「区版避難行動計画」に情報収集の仕方を記載している。 ・ホームページ「浜松市防災気象情報」、「浜松市土木防災情報」にて情報を公開するほか、災害情報を「防災ホットメール」、「緊急速報メール」、「浜松市防災アプリ」で配信している。 ・「同報無線」、「FMラジオ」、「ヤフーブログ」、「アラート」等により情報提供している。	【現状】 ・全戸配布している「磐田市防災ファイル」にて情報収集の啓発を行っている。 ・ホームページ「磐田市河川情報・雨量情報」にて市内の水位情報や時間雨量を情報提供している。 ・メールサービス「いわたホットライン」、同報無線、防災ラジオ、アラート等により情報提供している。	【現状】 ・静岡県土木総合防災情報ホームページ「サイボスレーダー」において、雨量・水位情報などの情報を提供、普及活動を行っている。	【現状】 ・防災情報提供システムにより、試行提供を開始している。 ・気象庁ホームページにおいて、降水ナウキャスト等リアルタイム情報の提供を行っている。	【現状】 ・気象情報や河川情報、事務所ホームページなどを活用し情報提供を行っている。	○災害情報やCCTVカメラ映像等を住民等に伝えるため、各種ホームページやテレビのポスター、同報無線スピーカーや広報車からの放送、防災メール・緊急通報メール等、様々な情報伝達手段の整備を図っている。	●高齢者等、機器の使用に不慣れな人への情報発信が不十分である。 ●数種類の防災情報が配信されているが、活用方法や説明の文言などが受け手側に分かりにくい。	H I	
	課題	【課題】 ・新たな情報入手方法が発生した場合、冊子で全戸配布しているため差替えが難しい。 ・高齢者等、機器の使用に不慣れな人への情報発信方法。	【課題】 ・高齢者に関してラジオ放送が適していると考えているが、放送局を整備する事については、コスト面から厳しい。	【課題】 ・更なる情報提供の発信・普及の取り組みが必要。		【課題】 ・流域特性を踏まえた更なる情報発信方法の検討が必要である。 ・更なる情報提供の発信・普及の取り組みが必要である。				

現状の水害リスク情報や取組状況の共有
各自治体でそれぞれ又は連携して実施している現状の減災に係る取組状況等

避難勧告等の発令及び関係機関での情報共有	現状	【現状】 ・タイムラインは関係機関と連携して作成している。 ・水害対応チェックリストはタイムライン試行時間確認表により確認している。	【現状】 ・タイムラインは関係機関と連携して作成している。 ・水害対応チェックリストはタイムライン試行時間確認表により確認している。	【現状】 ・洪水対応演習を実施し、情報伝達の方法や内容を確認している。(毎年)	【現状】 ・河川水位の動向に応じて、住民避難等に資する「洪水予報」(浜松河川国道事務所・静岡地方気象台共同発表)を自治体向けに通知している。 ・洪水対応演習を実施し、情報伝達の方法や内容を確認している。(毎年)	【現状】 ・河川水位の動向に応じて、住民避難等に資する「洪水予報」(浜松河川国道事務所・静岡地方気象台共同発表)を自治体向けに通知している。 ・関係機関の行動がわかるタイムラインが作成されている。 ・洪水対応演習を実施し、情報伝達の方法や内容を確認している。(毎年)	○市では、タイムラインは関係機関と連携して作成しており、水害対応チェックリストは作成したタイムラインにより活用している。 ○出水期前に実際の洪水が発生した場合を想定し、関係機関の参加による、洪水に対する対応演習や情報伝達方法の訓練を実施している。 ○河川水位の動向に応じて、浜松河川国道事務所・静岡地方気象台から「洪水予報」を発表している。自治体においては、避難勧告等の発令の判断材料としている。	●風水害における避難勧告は行っているものの、避難勧告を想定した訓練やシナリオの共有化が行われておらず、住民への周知の徹底や迅速な避難所運営に不安がある。	J
	課題	【課題】 ・タイムライン・水害対応チェックリスト共に、現状にあった検証が必要。	【課題】 ・タイムライン・水害対応チェックリスト共に、現状にあった検証が必要。	【課題】 ・各機関が策定されたタイムラインについて、作業段階における連携が必要である。	【課題】 ・タイムラインや水害対応チェックリストの策定状況、情報連絡室・意見交換会の実態が把握できていない。	【課題】 ・各機関のタイムラインの見直しと毎年の担当者ととの確実な周知の実施が必要である。			
避難場所、避難経路	現状	【現状】 ・常に避難場所の選定を実施している。(整備の予定なし)	【現状】 ・常に避難場所の選定を実施している。(整備の予定なし)				○各地区に、避難場所を設定し、ハザードマップなどにより、周知している。 ○市では、避難場所の選定や開設方法の見直しを行っている。	●想定最大規模の外力を対象とした洪水浸水想定区域図は、今後公表の予定となっており、洪水避難場所の検証を行う必要がある。	K
	課題	【課題】 ・洪水浸水想定区域図により、洪水避難場所の検証が必要。	【課題】 ・広域避難ができれば理想的だが、受け入れ側も被災するおそれがあるとともに、より負荷がかかることから、話し合う必要がある。						

③ 水防に関する事項

項目	浜松市	磐田市	静岡県	静岡地方気象台	浜松河川国道事務所	現状のまとめ	課題のまとめ	課題No	
水防活動の実施体制の強化	現状	【現状】 <水防訓練・共同点検> ・水防訓練を実施している。 ・国主催の重要水防箇所合同巡視に参加している。 ・ボート訓練を実施している。 ・連絡体制の確認、伝達訓練を実施している。 <水防団> ・「浜松市水防団分団長会議」を実施している。 ・規律訓練を実施している。 ・水防分団毎に工法訓練等を実施している。 ・水防団員の確保に向けて、水防倉庫や水防訓練時にポスターを掲示している。	【現状】 <水防訓練・共同点検> ・管轄の太田川水防組合が水防訓練の当番でない年は、2回実施している。 ・局地的豪雨の発生増加に伴い、2、3年前より全自治会を対象に簡易水防訓練を実施している。 ・研修のうち1回は、図上訓練を実施しているほか、過去5年間の中で職員が参加していない自治会に赴き指導している。 ・水防訓練時に水防活動を行う消防団員・地域住民に参加を要請する。 ・局地的豪雨に備え、自治会長・自主防災会会長を中心に、簡易水防訓練を実施する。 ・外国人向けの洪水避難訓練はこれまで実施していない。 <水防活動を行う消防団> ・連絡体制の確認、伝達訓練を実施している。 ・水防訓練時の事前研修にて実施している。 ・水防活動を行う消防団員の確保に向けて、水防倉庫や水防訓練時にポスターを掲示している。	【現状】 ・県管理区間の重要水防箇所の共同点検を実施している。 ・国主催の重要水防箇所の合同巡視に参加している。(毎年) ・市主催の水防訓練に参加している。 ・国が実施する水防工法等の基礎技術についての研修会や訓練に参加等の協力を行っている。 ・地域の建設会社と災害応援協定を締結し、災害対応や水防活動等の協力体制を整備している。		【現状】 ・水防工法等の基礎技術についての資料提供や説明を行っている。	○地域住民・水防団等を対象に、水防工法の習得と併せ、水防訓練を実施している。 ○連絡体制の確認、伝達訓練を実施している。 ○水防団員の確保に向けて、水防訓練や防災会議時において、水防活動の必要性の説明や、水防倉庫などにポスターを提示している。	●水防活動に対する認知度が低く、水防団員が不足している。また、近年、水防実績の経験が少なく、出水時に、迅速かつ的確な水防活動が厳しく、水防技術の伝承がされにくくなっている。	L
	課題	【課題】 ・消防団に比べ水防団の認知度が低い。	【課題】 ・迅速かつ的確な水防活動を継続させるため、水防団員の入団促進を図る必要がある。			【課題】 ・水防技術の伝承及び水防活動の普及が必要である。			
水防資機材の整備状況	現状	【現状】 ・土のうステーション(砂詰めした土のう保管庫)を設置している。	【現状】 ・水防備蓄資材置き場として、水防倉庫を整備している。 ・市役所・支所に土のうステーションを設置、住民自らで作製して持ち帰って頂いている。	【現状】 ・災害対応としての水防資機材を備蓄している。	【現状】 ・側帯堤防の裏側(堤内地側に土砂を積み上げた部分のこと)に根固ブロックや土砂を備蓄している。	○側帯(堤防の住宅側に土砂を積み上げた部分のこと)に根固ブロックや土砂を備蓄している。 ○水防倉庫や備蓄土砂以外に、市役所・支所に土のうステーションを設置し、住民自らの浸水防止活動の促進に役立っている。	●河川整備計画に位置づけられた資材の確保や水防作業の拠点となる防災ステーションが整備されていない。 ●地域住民が自宅などの浸水防止に使用できる土のうステーションが、計画通りに整備されていない。	M N	
	課題	【課題】 ・水防資機材の設置箇所を検討する必要がある。 ・水防倉庫が老朽化している。 ・土のうステーション設置箇所の調整及び検証が必要である。	【課題】 ・土のうステーション、もしくは水防倉庫の更なる広域展開が必要である。			【課題】 ・大規模な復旧に必要な拠点整備に向けた検討が必要である。			

現状の水害リスク情報や取組状況の共有
各自治体でそれぞれ又は連携して実施している現状の減災に係る取組状況等

別紙1

④ 氾濫水の排水、施設運用に関する事項

項目		浜松市	磐田市	静岡県	静岡地方気象台	浜松河川国道事務所	現状のまとめ	課題のまとめ	課題No
排水施設、排水資機材の操作・運用	現状	<p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> <排水計画> ・排水計画の策定は実施していない。 <p><連絡体制・排水訓練></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「浜松市水防計画書」へ記載している。 ・災害対策用機械操作講習会へ参加している。 	<p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> <排水計画> ・排水計画の策定に向けた検討を行っている。 ・災害協力業者と協定を締結し、地域別に担当を決定している。 <p><排水訓練></p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害対策用機械操作講習会に参加している。 	<p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・排水に関する計画はなく、排水ポンプ車も有していない。 		<p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・排水ポンプ車や照明車等の災害対策車両・機器は平常時から定期的な保守点検を行うとともに、機材を扱う職員等の教育体制も確保し、常時、災害発生に対応した出動体制を確保している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○排水ポンプ車や照明車等の災害対策車両・機器は平常時から定期的な保守点検を行うとともに、機材を扱う職員等の教育体制も確保している。 ○災害対策車両の運転操作や、建設資材の運搬・設置などの作業を速やかに行えるよう、民間会社と災害協定を締結している。 	<ul style="list-style-type: none"> ●氾濫水を計画的に排水するための計画がない。 ●大規模な浸水を想定した排水訓練が実施されていない。 	O P
	課題	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <排水計画の策定> ・道路状況や住民のニーズも踏まえ検討する必要がある。 ・被害想定を基に検討した配置計画等については、検証をしながら見直しが必要である。 ・排水する際は、天竜川でなく県管理河川へ排水するため、排水計画の策定には県の協力が必要不可欠である。 ・防潮堤等の整備と同調しながら進める必要がある。 ・排水計画の役割分担を明確にする必要がある。 <p><排水訓練></p> <ul style="list-style-type: none"> ・年1回程度の災害対策用機械操作講習会では操作方法を覚えきることが出来ない。 				<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・想定最大規模の洪水や津波を対象とした被災に対する排水計画が未整備であり、迅速な復旧作業が出来ない可能性がある。 ・大規模な浸水を想定した、迅速な排水活動を行うための訓練が必要である。 			

⑤ 河川管理施設の整備に関する事項

項目		浜松市	磐田市	静岡県	静岡地方気象台	浜松河川国道事務所	現状のまとめ	課題のまとめ	課題No
洪水を安全に流すためのハード対策の推進	現状					<p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・河道の流下能力が不足している区間の整備を実施している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○河道の流下能力が不足している区間の整備を実施している。 	<ul style="list-style-type: none"> ●流水を安全に流すためのハード対策と、越水等が発生した場合でも決壊までの時間を少しでも引き延ばすための危機管理型ハード対策の整備を早急に計画的に進める必要がある。 	Q
	課題					<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設で対応できる以上の洪水に対しても、避難までの時間をできるだけ確保するための、危機管理型ハード対策を進める必要がある。 			

具体的な取組の柱			目標時期	実施する機関					地域住民
事項	具体的な取組	課題No		浜松市	磐田市	静岡県	気象台	浜松河川国道	
1. 住民等に防災を意識してもらうための取り組み									
■自主防災体制の強化									
	自主防災会が継続的かつ適切に運営されるための情報提供や体制・活動の支援	A,L,N	引き続き実施	○	○				参加
	重要水防箇所など水害リスクが高い区間などに関する情報提供と説明会の開催	B	H28年度～					○	参加
■水災害教育の充実									
	学校などと連携した天竜川下流域の洪水の特徴を踏まえた水書(防災)教育の拡充	C,D,E	高校生などに対象範囲を拡大し、引き続き実施	○	○		○	○	参加
	関係機関と協力・連携した普及啓発活動の実施(出前講座、ワークショップ等)	C,D	H28年度～	○	○		○	○	参加
	効果的な「水防災意識社会」再構築に役立つ情報や、水害リスクを周知するための啓発資料の作成	B,C,D	H28年度～	○	○	○	○	○	活用
	地域における災害時の応急活動・マネジメントや平時の防災訓練の場でのリーダーとなる防災リーダー・講師の育成	D	引き続き実施	○	○	○	○	○	参加
2. 住民等に避難行動してもらうための取り組み									
■住民等自らの避難行動に資するハザードマップの改良									
	想定最大規模の外力を対象とした洪水浸水想定区域図の策定・公表	F,G	H28年度中					○	活用
	想定最大規模の外力を対象とした氾濫シミュレーションの作成・公表	F,G	H28年度中					○	活用
	想定最大規模の外力を対象とした洪水浸水想定区域図を基にした洪水ハザードマップの作成・周知の実施	F,G	H32年度	○	○				活用
■円滑で確実な避難に資する情報発信									
	水害時の情報入手のしやすさ・分かりやすさを支援するための広報活動の実施	E,H,I	H28年度～	○	○	○	○	○	活用
	住民の避難行動を促すためのスマートフォン等を活用したリアルタイム情報の提供やプッシュ型情報の発信・普及活動の実施	E,H,J	引き続き実施	○	○			○	活用
■避難指示などを計画的に関係者が取り組むための事前行動計画等の策定									
	洪水を対象とした避難勧告の発令等に着目したタイムライン(時系列の防災行動計画)の見直し	J,K	H28年度～	○	○	○	○	○	-
	市の職員の誰もが水害対応できるチェックリストの作成	J	引き続き実施	○	○				-
	想定最大規模の外力を対象とした洪水浸水想定区域図に伴う、洪水避難場所の検討・整備の促進	K	H28年度～	○	○				活用
	高齢者等、機器の使用に不慣れな人への情報伝達手段の多元化、通信機器の更新	H	引き続き実施	○	○	○		○	活用
	雨量や水位、洪水予報等の情報を確実かつ迅速に提供するとともに地域住民に避難の切迫性が確実に伝わる情報内容の見直し	I	H28年度～	○	○	○	○	○	活用
	関係機関の対策を統括している代表者との、きめ細やかな情報連絡・情報共有を行うため、情報連絡室を使用したネットワークの強化	J	H28年度～					○	活用
	避難を行う住民代表との避難に関する課題や問題点などの意見交換会を実施し、避難勧告等発令の参考とする	J	H28年度～		○				参加
3. 洪水氾濫による被害の軽減のための水防活動・排水活動の取り組み									
■住民等自らの水防活動の促進									
	住民等自らの浸水防止活動の促進のための土のうステーション(備蓄砂置き場等)の設置	N	引き続き実施	○	○				活用
■水防活動の効率化・水防体制の強化									
	確実な水防活動のため、水防団等への連絡体制の確認と伝達訓練の実施	L	引き続き実施	○	○				-
	関係機関が連携した実働水防訓練の実施	L	引き続き実施	○	○	○		○	-
	水防団や地域住民が参加する、重要水防箇所などの水害リスクの高い箇所での共同点検の実施	L	引き続き実施	○	○	○		○	参加
	水防団員に対する教育・訓練(水防工法の伝承、安全教育など)の実施	L	引き続き実施	○	○	○		○	-
	水防団員確保に向けて、水防団の重要性をPRする資料を作成し、自治会等への説明会を開催するなど普及啓発活動の実施	L	引き続き実施	○	○				-
■被害軽減のための迅速かつ確実な水防活動・排水活動に資する基盤等の整備									
	優先的に対策が必要な河道掘削などの洪水を河川内に安全に流すためのハード対策及びアスファルトによる天端の保護などの危機管理型ハード対策の実施	Q	引き続き実施 ※天端舗装はH32年度					○	-
	円滑な水防活動のため橋脚等への簡易水位計・量水標設置	M	H30年度					○	-
	迅速な水防活動及び緊急復旧活動を行う支援の拠点となる防災ステーション整備に向けた検討	M	H28年度～	○	○			○	-
■迅速に復旧・復興するための取り組み									
	氾濫水を迅速かつ的確に排水するための排水計画の策定	O	H28年度～	○	○	○		○	-
	排水ポンプ車出動要請の連絡体制を整備し、排水計画に基づく排水訓練を実施	P	H28年度～	○	○	○		○	-

○概ね5年で実施する取組

具体的な取組の柱		実施する機関				
事項		浜松市	磐田市	静岡県	静岡地方気象台	浜松河川国道事務所
具体的な取組	課題 No					
1. 住民等に防災を意識してもらうための取り組み						
■自主防災体制の強化						
自主防災会が継続的かつ適切に運営されるための情報提供や体制・活動の支援	A,L,N	・自治会、自主防災隊への出前講座を実施する(毎年) 【引き続き実施】	・自治会長・自主防災会長への研修会を実施(講演会、図上訓練)、道具の貸出支援を行う(毎年2回) ・自主防災会の活動支援(マニュアル等整備)を行う(毎年) ・自治会連合会と自主防災会が推進する「防災対策アクションプログラム」の支援を行う(毎年) 【引き続き実施】			
重要水防箇所など水害リスクが高い区間などに関する情報提供と説明会の開催	B					・水害リスクが高い区間等に関する情報の提供と説明会を実施する 【H28年度～】
■水災害教育の充実						
学校などと連携した天竜川下流域の洪水の特徴を踏まえた水害(防災)教育の拡充	C,D,E	・市内小中学校の総合学習講座に防災メニューを導入する 【H28年度～】 ・「防災ノート」(防災教材)を作成する 【引き続き実施】	・依頼に応じて、小中学校で講座を実施する 【H28年度～】		・気象や水災害に関する防災授業素材を提供する 【H28年度～】	・流域自治体において、管理者が作成した防災に関する資料を使用した授業が行われるよう、啓発活動を推進する 【H28年度～】
関係機関と協力・連携した普及啓発活動の実施(出前講座、ワークショップ等)	C,D	・総合防災講座や出前講座を実施する 【引き続き実施】	・内容に応じて、関係機関と協力・連携して実施する 【引き続き実施】		・出前講座や気象庁ワークショップによるコミュニケーションを活用した能動的な学習等、関係機関と協力・連携した普及啓発活動を実施する ・双方の取組がより効果的となるような講師派遣やイベントの参画等の相互支援を行う 【H28年度～】	・防災展示を実施する ・防災関係の会議などでの出前講座の開催を行う 【H28年度～】
効果的な「水防災意識社会」再構築に役立つ情報や、水害リスクを周知するための啓発資料の作成	B,C,D	・「区版避難行動計画」、「洪水ハザードマップ」及び「防災マップ」を活用し、啓発に役立てる 【引き続き実施】	・「磐田市防災ファイル」やチェックシートを活用し、啓発に役立てる 【引き続き実施】	・関係機関と協議し、防災テキストの作成に協力する 【H28年度～】	・教育機関等が行う防災教育や防災機関が行う防災知識の普及促進のための資料提供等の支援を行う 【H28年度～】	・防災に関する知識の習得や、防災に関する啓発活動、教育現場での教材などに活用できる防災テキストを作成する 【H28年度～】
地域における災害時の応急活動・マネジメントや平時の防災訓練の場でのリーダーとなる防災リーダー・講師の育成	D	・総合防災講座や出前講座を実施する。 【引き続き実施】	・女性を中心とした団体に実施する ・自主防災会長を中心に、図上訓練(DIG・HUG)を実施する 【引き続き実施】	・「静岡県ふじのくに防災士養成講座」に参加し、防災リーダーの育成を図る 【引き続き実施】	・市町の防災担当者や防災リーダー等の育成を支援する。 【引き続き実施】	・水防関係者や教育指導者への防災テキスト活用のためのセミナーを開催する 【H29年度～】
2. 住民等に避難行動してもらうための取り組み						
■住民等自らの避難行動に資するハザードマップの改良						
想定最大規模の外力を対象とした洪水浸水想定区域図の策定・公表	F,G					・洪水浸水想定氾濫区域図の策定・公表 【H28年中】
想定最大規模の外力を対象とした氾濫シミュレーションの作成・公表	F,G					・氾濫シミュレーションの作成・公表 【H28年度中】
想定最大規模の外力を対象とした洪水浸水想定区域図を基にした洪水ハザードマップの作成・周知の実施	F,G	・想定最大規模降雨に基づいた洪水浸水想定区域図への見直しに伴い、洪水ハザードマップの改訂版を作成する 【H32年度】	・想定最大規模降雨に基づいた洪水浸水想定区域図への見直しに伴い、洪水ハザードマップの改訂版を作成する 【H32年度】			

○概ね5年で実施する取組

具体的な取組の柱		実施する機関				
事項		浜松市	磐田市	静岡県	静岡地方気象台	浜松河川国道事務所
具体的な取組	課題 No					
■円滑で確実な避難に資する情報発信						
水害時の情報入手のしやすさ・分かりやすさを支援するための広報活動の実施	E.H.I	・「区版避難行動計画(全戸配付)」にて啓発を行う【引き続き実施】	・「磐田市防災ファイル」にて啓発を行う【引き続き実施】	・静岡県土木総合防災情報ホームページ「サイボスレーダー」において、情報提供並び普及活動を行う【引き続き実施】	・気象庁ホームページ等において、わかりやすい情報提供(警報等における危険度の色分け表示、「警報級の現象になる可能性」の情報提供、警報・注意報を補足するメッシュ情報の充実化)を行う【H29年度～】	・主旨が伝わりやすい情報提供を促進する ・情報発信に入手に関する広報チラシの作成と配布を行う【H28年度～】
住民の避難行動を促すためのスマートフォン等を活用したリアルタイム情報の提供やプッシュ型情報の発信・普及活動の実施	E.H.J	・メールサービス「防災ホットメール」、「緊急速報メール」にて情報配信する ・ホームページ「浜松市防災気象情報」、「浜松市土木防災情報」、スマートフォン用「浜松市防災アプリ」にて情報提供を行う ・機器の使用に不慣れな方の対応は「FMラジオ」、「Lアラート」等により情報提供【引き続き実施】	・メールサービス「いわたホットライン」、緊急速報メールにて情報配信する ・ホームページ「磐田市河川情報・雨量情報」にて市内の水位情報や時間雨量を情報提供する ・Lアラート(災害情報共有システム)により情報共有・提供を行う【引き続き実施】			・ソフト対策:情報共有 ・地域への情報発信・情報共有【H28年度～】
■避難指示などを計画的に関係者が取り組むための事前行動計画等の策定						
洪水を対象とした避難勧告の発令等に着目したタイムライン(時系列の防災行動計画)の見直し	J.K	・関係機関と連携して、タイムラインの見直しを検討する【引き続き実施】	・関係機関と連携して、タイムラインの見直しを検討する【引き続き実施】	・タイムラインの策定や見直しに協力する【引き続き実施】	・タイムラインの策定や見直しに協力する【引き続き実施】	・各関係機関の行動計画がわかる、タイムライン整理と見直しを行う ・タイムラインに基づく訓練を実施する【H28年度～】
市の職員の誰もが水害対応できるチェックリストの作成	J	・タイムラインと共に見直しを検討する【引き続き実施】	・タイムラインと共に見直しを検討する【引き続き実施】			
想定最大規模の外力を対象とした洪水浸水想定区域図に伴う、洪水避難場所の検討・整備の促進	K	・必要に応じ、見直しを検討する(毎年)【H28年度～】	・必要に応じ、見直しを検討する(毎年)【H28年度～】			
高齢者等、機器の使用に不慣れな人への情報伝達手段の多元化、通信機器の更新	H	・確実な情報発信のための通信機器の更新を行う。【引き続き実施】	・確実な情報発信のための通信機器の更新を行う。【引き続き実施】	・確実な情報発信のための通信機器の更新を行う。【引き続き実施】		・流域特性を踏まえた更なる情報発信方法や情報提供の発信・普及を行う。【引き続き実施】
雨量や水位、洪水予報等の情報を確実かつ迅速に提供するとともに地域住民に避難の切迫性が確実に伝わる情報内容の見直し	I	・ホームページ「浜松市防災気象情報」、「浜松市土木防災情報」にて情報を公開するほか、災害情報を「防災ホットメール」、「緊急速報メール」、「浜松市防災アプリ」で配信する ・「同報無線」、「FMラジオ」、「ヤフーブログ」、「Lアラート」等により情報提供する【引き続き実施】	・メールサービス、同報無線、防災ラジオ、Lアラート(災害情報共有システム)等により情報提供する【引き続き実施】	・避難勧告等の情報を共有する【H28年度】	・洪水予報文、伝達手法の改善を行う【引き続き実施】	・避難勧告の発令基準を洪水実績や河川状況を把握し、適宜見直しを行う ・水位等の情報を関係機関と共有するための施設の整備を進める ・洪水予報文、伝達手法の改善を行う【H28年度～】
関係機関の対策を統括している代表者との、きめ細やかな情報連絡・情報共有を行うため、情報連絡室を使用したネットワークの強化	J					・関係機関に参加を呼びかける ・関係機関と情報連絡室の情報内容の充実を検討・改善する【H28年度～】
避難を行う住民代表との避難に関する課題や問題点などの意見交換会を実施し、避難勧告等発令の参考とする	J		・関係機関と協力して、意見交換会を行う【H28年度～】			

○概ね5年で実施する取組

別紙2-2

具体的な取組の柱		実施する機関				
事項		浜松市	磐田市	静岡県	静岡地方気象台	浜松河川国道事務所
具体的な取組	課題 No					
3. 洪水氾濫による被害の軽減のための水防活動・排水活動の取り組み						
■住民等自らの水防活動の促進						
住民等自らの浸水防止活動の促進のための土のうステーション(備蓄砂置き場等)の設置	N	・土のうステーション(砂詰めした土のう保管庫)の設置を進める【引き続き実施】	・土のうステーション(砂詰めした土のう保管庫)の設置を進める【引き続き実施】			
■水防活動の効率化・水防体制の強化						
確実な水防活動のため、水防団等への連絡体制の確認と伝達訓練の実施	L	・連絡体制の確認、伝達訓練を実施する【引き続き実施】	・消防本部により連絡体制の確認、伝達訓練を実施する【引き続き実施】			
関係機関が連携した実働水防訓練の実施	L	・水防訓練を実施する(毎年) ・国主催の重要水防箇所合同巡視に参加する(毎年) ・ボート訓練を実施する(毎年) 【引き続き実施】	・水防訓練を実施する(毎年) ・国主催の重要水防箇所合同巡視に参加する(毎年) 【引き続き実施】	・県管理区間の重要水防箇所の共同点検を実施する(毎年) ・国主催の重要水防箇所合同巡視に参加する(毎年) ・市主催の水防訓練に参加する(毎年) 【引き続き実施】		・関係機関へ重要水防箇所の状況について説明会を実施する ・毎年、出水期前に地元市町村、水防団等と合同巡視を行い、重要水防箇所等の情報共有を図る ・自治体への助言を行う 【引き続き実施】
水防団や地域住民が参加する、重要水防箇所などの水害リスクの高い箇所の共同点検の実施	L	・国主催の重要水防箇所合同巡視に参加する(毎年) 【引き続き実施】	・水防訓練時に水防団員・地域住民に参加を要請する ・局地的豪雨に備え、自治会長・自主防災会会長を中心に、簡易水防訓練を実施する【引き続き実施】 ・水防訓練において、外国人が参加できる簡易水防訓練を実施する【H28年度～】	・国主催の重要水防箇所合同巡視に参加する(毎年) ・県管理区間の重要水防箇所の共同点検を実施する(毎年) 【引き続き実施】		・関係機関へ重要水防箇所の状況について説明会を実施する ・毎年、出水期前に地元市町村、水防団等と合同巡視を行い、重要水防箇所等の情報共有を図る ・自治体への助言を行う 【引き続き実施】
水防団員に対する教育・訓練(水防工法の伝承、安全教育など)の実施	L	・「浜松市水防分団長会議」を実施する(毎年) ・規律訓練を実施する(毎年) ・水防分団毎に工法訓練を実施する(毎年) 【引き続き実施】	・水防訓練時の事前研修にて実施する【引き続き実施】	・国が実施する水防工法等の基礎技術についての研修会や訓練に参加等の協力を行う【引き続き実施】		・水防団を指揮する市町防災担当者に対して、水防工法等の基礎技術についてテキストを用いて説明会を実施する【引き続き実施】
水防団員確保に向けて、水防団の重要性をPRする資料を作成し、自治会等への説明会を開催するなど普及啓発活動の実施	L	・水防団員の確保に向けて、水防倉庫や水防訓練時にポスターを掲示する【引き続き実施】	・水防団員の確保に向けて、水防倉庫や水防訓練時にポスターを掲示する【引き続き実施】			
■被害軽減のための迅速かつ的確な水防活動、排水活動に資する基盤等の整備						
優先的に対策が必要な河道掘削などの洪水を河川内に安全に流すためのハード対策及びアスファルトによる天端の保護などの危機管理型ハード対策の実施	Q					・ハード対策: 浸透対策(3.4km)、パビング対策(3.5km)、流下能力対策(2.0km) ・危機管理型ハード対策: 天端の保護(3.1km) 【引き続き実施 ※天端舗装はH32年度】
円滑な水防活動のため橋脚等への簡易水位計・量水標設置	M					・水位等の情報を関係機関と共有するための施設の整備を進める【H30年度】
迅速な水防活動及び緊急復旧活動を行う支援の拠点となる防災ステーション整備に向けた検討	M	・水防倉庫を整備する【H28年度～】	・水防倉庫を整備する【H28年度～】			・防災ステーションなどの整備検討を進める ・河川防災拠点等の整備検討を進める【H28年度～】
■迅速に復旧・復興するための取り組み						
氾濫水を迅速かつ確に排水するための排水計画の策定	O	・排水計画の策定に協力する【H28年度～】	・排水計画の策定に協力する【H28年度～】 ・「磐田市地域防災計画」を作成する【引き続き実施】	・排水計画の策定に協力する(氾濫域に位置する県管理河川の計画諸元等の情報提供) 【H28年度～】		・早期に氾濫水を排水するため、排水計画を策定する【H28年度～】
排水ポンプ車出動要請の連絡体制を整備し、排水計画に基づく排水訓練を実施	P	・災害時対応のため、民間会社と災害協定締結する ・災害対策用機械操作講習会へ参加する(毎年) ・「浜松市水防計画書」へ記載する【引き続き実施】	・災害時対応のため、民間会社と災害協定締結する ・災害対策用機械操作講習会へ参加する(毎年) 【引き続き実施】	・災害時対応のため、民間会社と災害協定締結する ・災害対策用機械操作講習会へ参加する(毎年) 【引き続き実施】		・災害時対応のため、民間会社と災害協定締結する ・災害対策用機械操作講習会を開催する(排水機場・樋門・樋管、排水ポンプ車) 【H28年度～】